

暮らしに役立つ情報満載！



住まいるニュース

2023
11
vol.156

今月の特集

家庭の防災対策

災害に備えることは、家庭の安全と快適さを守るために重要です。しかし、多くの人は、防災対策について十分な知識や準備がないと感じているかもしれません。そこで、この記事では、家庭でできる防災対策について紹介します。

万が一にも慌てない 事前の備えが重要

11月は気温が下がり、乾燥や強風などの気象条件が災害の発生を引き起こしやすくなる時期です。地震や火災、洪水などの自然災害による緊急事態に備えて、一人ひとりが防災意識を高めて、必要な備えを整えましょう。

まず、防災対策の基本は、非常用持ち出し袋や非常食などの備蓄品を用意することです。備蓄品の内容や量は、家族の人数や健康状態、住んでいる地域の災害リスクなどに応じて調整しましょう。また、備蓄品は定期的に点検や入れ替えを行うことが大切です。

次に、防災対策の具体的な方法として、家具や家電などの落下防止や固定を行うことが挙げられます。地震や台風などの強い揺れで家具が倒れたりすると、人に怪我をさせたり火災を引き起こしたりする危険があります。そこで、家具や家電は壁や床にしっかり固定したり、落下防止用のベルトやフックなどを取り付けたりしましょう。また、窓ガラスは割れ防止フィルムを貼ったり、カーテンを閉めたりして飛散を防ぎましょう。

災害時には、電話回線が混雑したり、通信が途絶えたりする可能性があるため、家族や友人と安否確認の手段や待ち合わせ場所などを事前に決めておく

ことが重要です。災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板などのサービスを活用することで、自分の状況や連絡先を伝えたり、他の人の安否を確認したりすることができます。

住まいの防災は 高い住宅性能から

最後に、高い住宅性能を持つ住宅を選ぶことも、防災対策の一つです。高い住宅性能を持つ住宅は、地震や台風などの自然災害に対して強く安全だけでなく、断熱性や気密性も高く快適な住環境を提供します。地震・火災、大津波などの災害に対して高い耐久性を持つ「FPの家」は、FP軸組工法という独自の技術を用いています。この工法では、木枠と硬質ウレタンフォームを

体化させた「FPウレタン断熱パネル」を建物の骨組みとして使用し、壁面に隙間ができないように組み立てます。このようにすることで、壁自体が強固な構造となり、地震や風圧にも耐えられるようになります。さらに、「FPウレタン断熱パネル」は、空気や酸素が入り込まないため、火災にも強い特徴を持っています。ウレタンが直接燃えて有害なガスを出したり、壁内で火が燃え広がりにくい構造になっています。

いつ起こるかかわからない災害に備えて、日頃から防災対策を行うことで、被害を最小限に抑える可能性が高まります。ぜひ、災害に強い「FPの家」で安全安心な暮らしを実現してみませんか？



住まいの知恵袋

家庭用発電システム



家庭用発電システムは太陽光や風力などの自然エネルギーを利用して、自宅で電気を作る仕組みのことで、太陽光発電や風力発電、燃料電池などの種類があります。家庭用発電システムのメリットは、自分で作った電気を使うことで電気代を節約できる

ことや、災害時にも安定した電源を確保できることです。また、自然エネルギーは再生可能なエネルギーなので、環境にやさしいという点も魅力です。家庭用発電システムの導入には、設置費用やメンテナンス費用がかかりますが、国や自治体の補助金制度や売電制度を利用すれば、コストを抑えることができます。家庭用発電システムは、自宅で快適な暮らしをしながら、地球にも貢献できる素晴らしいシステムです。

！できた！ 簡単DIY

防災グッズの自作



万が一、被災した際に慌てないよう、日頃から防災を意識して防災グッズのDIYにチャレンジしてみませんか？例えば、防災ヘルメットは、ペットボトルと段ボールで作ることができます。ペットボトルを切って広げて頭にかぶり、段ボールを折って帽子の

形にします。両方ともテープや糸で固定すれば頭部を衝撃や落下物から守ることができます。防災ランタンは、ペットボトルや牛乳パックなどの透明な容器に水と漂白剤を入れて作ることができます。水を容器の8割程度まで入れて、漂白剤を水の量に応じて数滴から数十滴入れたペットボトルを、懐中電灯などの光で反射して拡散させることで、暗闇を明るくすることができます。災害に備えてぜひ試してみてください。

◆お金の豆知識◆

火災保険の選び方

火災だけでなく、落雷や台風などの自然災害や事故による住宅や家財の損害を補償する火災保険。火災保険には、基本プランと、盗難や破損、個人賠償責任などを付け加えることができるオプションがあります。細かい補償対象や範囲は各保険会社によって違いがあるので、住まいやライフスタイルに合わせたプランを選ぶことが大切です。



おしえて！

Dr.住まいる

家庭の火災対策

2006年から火災対策として、寝室とそこに続く階段への火災報知機の設置が義務化されており、火災の起きやすい台所にも設置を義務付けている自治体もあるため、設置と定期的なメンテナンスはしっかりと。調理中や暖房器具の使用中は常に目を離さない、タバコやろうそくの消し忘れに注意するなど、いま一度行動の見直しを行いましょう。



暮らしの1ポイント

家庭の緊急避難訓練

災害時に家族全員が迅速かつ安全に避難できるよう、年に一度は緊急避難訓練を行いましょう。懐中電灯、ラジオ、水などの防災グッズを用意し、内容や場所を家族全員で確認しましょう。また、家の中や外で起こりうる災害の種類や危険度に応じて、最適な避難経路と安全な避難場所を事前に

